



2023年 7月13日
第 2 号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横浜地本第28回定期大会 (要旨) ①

大会スローガン

確認された大会宣言

1. 「2023 JR総連春闘」「2023年度夏季手当のたたかい」をたたかい抜いた組織力を基礎に、労働者意識を高め、JR東労組への結集を訴え、全組合員で組織の強化・拡大を実現しよう！

2. 命と安全を最大の価値基軸に、今こそ「新生JR東労組運動宣言」を具現化し、「JR発足最大の変革」に立ち向かい、懲罰的日勤教育・人間破壊の人事異動を許さず、『職場からの挑戦』で職場に安全哲学の再確立をめざそう！

3. 「抵抗とヒューマニズム」の精神を基底に、あらゆる戦争政策に反対！脱原発！安易な赤字路線の廃止反対！JR東労組と連帯する仲間と共に、平和で安心して暮らせる社会の実現をめざそう！

組合表彰



東神奈川電車区分会・相模原運輸区分会の分会長を歴任し、長きにわたりJR東労組運動を牽引してきた浅山司郎さんが組合表彰を受賞されました！

おめでとうございます！

大会宣言 (✖)

JR東労組横浜地本は7月8日、かながわ労働プラザにて第28回定期大会を開催し、スローガン、運動方針を含め全組合員で組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

23春闘は「21春闘での定昇カットと『慎重論』によって賃金を抑え込む経営姿勢は、懲罰的日勤教育を行う経営姿勢として現れ、会社は全体重をかけJR東労組に攻撃を仕掛けている」と意思統一をしたたかかってきた。会社回答に対して職場からは「納得できない」との声が噴出し、緊急再申し入れを行い最後までたたかい抜いてきたが、会社回答を覆すことはできなかった。一方、総対話で要求根拠を明確にし、ベアと定昇の違いを議論することで組合員が強化され、社友会やJR連合などの低額相場づくりを打ち破ることができた。

2023年度夏季手当のたたかいは、約3年間コロナ禍における特別手当を求め続け、労使議論を積み上げた結果として一定の要求の前進は確認できた。しかし、再申し入れも含め11700件の声を訴えてきたが、経営姿勢を変えることはできなかった。会社は、最高益を上げ続けてきたこれまでの歴史でも、「突出感」や「他企業との足並み」を理由に私たちの要求に満額の回答を示したことはなかった。再申し入れに対する会社回答からも「定期収入が9割しか戻らない」ことを「新たな定常状態」とし、「厳しい経営環境」を理由に「年間手当を5ヶ月ベース」としようとしているかのような姿勢が透けて見える。このような経営姿勢を打ち破るためには、労働者の力をJR東労組に結集させ、「最低限6ヶ月ベースに戻していくべきだ！」と、声を大にして訴えていかなければならない。

現在JR東日本会社が福知山線脱線事故前夜となっているのは、会社だけの問題ではない。これまでの「日勤教育」を我々リーダーが見過ごしてきたと国府津運輸区のたたかいは通じて総括をしてきた。懲罰的日勤教育での初勤の遅れを反省に、大船駅異線現示・異線進入や小田原駅での速度超過、東京駅での出区点検取り扱い誤りの事象に対して早期の原因究明委員会を開催し、本人出席のもと分会としての対策を確定してきた。安全文化は自己保身とのたたかいかでもある。本人の問題に切り縮めず、評論家にならず、自身の問題として捉えることで、会社ではつくりえない安全文化の再確立をJR東労組からつくり出していこう！

「融合と連携」の名のものと、ジョブローテーション施策の労使議論を反故にした強制的異動が多発している。モチベーション低下はおろか退職者まで生み出している。更には、豊田運輸区では人間破壊の事前通知が行われ、組合員が病気休職にまで追い込まれた。人権侵害・人間破壊の会社姿勢を断じて許すことはできない！

ロシアのウクライナ侵攻や台湾有事などを理由に「新たな戦前」がつくり出されようとしている。軍需産業が莫大な利益を得る一方で、戦争で命を落とすのは労働者と子どもや弱者である。平和で安心して暮らせる社会の実現をめざし、憲法9条を守り広める仲間との連帯を大きくつくり出していく。

「新生JR東労組運動宣言」をもとに、「抵抗とヒューマニズム」の精神を育み、安全哲学の再確立をめざし、JR東労組への帰属意識を高め、あらゆる妨害に立ち向かい、組織強化・拡大を実現し、全ての仲間と共に「職場からの挑戦」で未来を切り拓いていこうではないか！

以上、宣言する。

2023年 7月 8日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部第28回定期大会

仲間と共に「職場からの挑戦」で未来を切り拓こう！